

古文書倶楽部

公開講座 秋田初開催!!

徳川林政史研究所をたずねて

★徳川林政史研究所とは

日本の国土面積に占める森林の割合は、およそ六七パーセントといわれます。また、秋田県の面積の七一パーセントが森林で、なかでも秋田杉は青森ヒバ・木曾ヒノキと並んで日本三大美林のひとつにあげられます。

このうち、木曾ヒノキの林政を担ったのが徳川御三家のひとつ尾張徳川家です。そして、尾張徳川家が設立した法人に所属し、日本にひとつしかない林業史研究機関が、徳川林政史研究所です。

研究所では、尾張徳川家に伝わる古文書や全国の林業史関係資料などを公開しているほか、江戸時代を中心とした林業生産や流通に関する研究や、幕政史・藩政史などの研究活動を行っています。また森林保護・育成に関する歴史資料の保全を目的に、全国各地の資料調査を積極的にすすめています。

★公開講座の注目ポイントは……

古文書倶楽部 第43号 (2011年10月)
研究所では、平成十九年から秋田での資料調査を継続しています。この調査によって、秋田県内各地に残された古文書や歴史的公文書の中から、江戸時代の森林保護・育成の様子が具体的に解き明かされてきています。

【発行】

秋田県公文書館
2011.10
第43号

秋の公文書館では、企画展・公文書館講座・県政映画上映会に加え、徳川林政史研究所の公開講座を開催します。最新の研究発表にふられる貴重な機会です。秋田初開催です。

そしてこの度、調査成果に基づいた公開講座が地元秋田で開催されることになりました。

講座のなかでは、江戸時代から伝わる方法で山から材木を切り出す様子を記録した木曾や秋田の映像が紹介されるほか、森林資源としての秋田杉をめぐる江戸時代を通じて秋田藩の林業政策の特色や、鉱山で消費される材木に着目して江戸時代の林業の新たな側面を明らかにした阿仁銅山の事例など、最新の研究成果がわかりやすく報告されます。講座の後半には、参加者からの質問にお答えする時間も準備しています。



秋田杉子造材之画 (徳川林政史研究所 所蔵)

「まちがいなく楽しめる講座です。決して損はさせません。」と語るのには、研究所の太田尚宏主任研究員。環境保護の重要性が叫ばれる現代、江戸時代の古文書を通じて、あらためて森林の大切さを考えてみませんか。

【加藤 昌宏】

徳川林政史研究所

公開講座 in 秋田

「史料に見る」

江戸時代の森林

のお知らせ

秋田藩の計画的林政の実態が、最新の研究成果に基づいて明らかになる貴重な機会です。興味・関心のある方は、ぜひこの機会にお申し込みください。

【日時】 十一月二十六日(土)

午後一時三十分～四時三十分

【会場】 秋田県公文書館 多目的ホール

【報告】

太田尚宏氏 徳川林政史研究所 主任研究員

「図像・映像に見る」

脇野 博氏 秋田工業高等専門学校 教授

「秋田藩林政と森林資源の保護」

芳賀和樹氏 徳川林政史研究所 非常勤研究生

「秋田藩における」

銅山用山林の経営計画

参加ご希望の方は、氏名・住所・電話番号を、電話・はがき・FAX、または直接ご来館のうえお知らせください。なお定員五十名で、先着順となります。くわしくは当館ホームページまたは当館に直接お問い合わせください。

今月のおすすめ

男鹿半嶋図

(資料番号 地7)

★絵巻にみる男鹿の景勝さまざま

秋田県を代表する観光地のひとつ男鹿半嶋。海岸部にみられる断崖や地層、数多くの奇岩はまさに圧巻。科学的にも貴重な地質遺産であるとして、この九月には、男鹿半嶋・大潟地域が日本ジオパークに認定されました。当館が所蔵する「男鹿半嶋図」には、男鹿の海岸線の景勝の数々が丁寧に描かれています。四メートルを超える絵巻の世界で、しばし「男鹿めぐり」を体感してみませんか。

五社堂につづく石段が細かく描かれた門前附近には、現在は磯釣りで有名な潮瀬崎のシンボル「帆掛島」や、昭和十四年の大地震で頭部が落下したといわれる竜ヶ島のもとの姿が「龍頭石」として描かれています。さらに進むと、「黄雀ヶ窟」「小山橋」「白糸滝」など次々と景勝が登場します。現在でも遊



白糸の滝



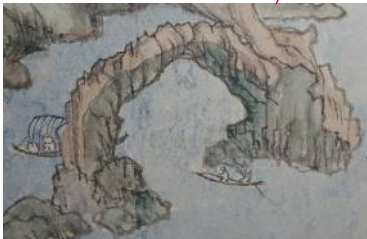
竜ヶ島



黄雀ヶ窟～白糸滝 附近



帆掛島～龍頭石 附近



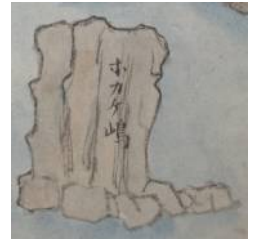
大棧橋



孔雀の窟



阿治ヶ島



帆掛島

覧船コースの人気スポットですが、絵巻の世界にも、たくさん船が行き来している様子が描かれています。途中の「阿治ヶ島」には、敷物が広げられて多くの人々が集まっています。現在はダイビングポイントとして知られるようですが、さて彼らは何をしているのでしょうか。

★話題の「ゴジラ岩」は……

「男鹿半嶋図」には、半島南部の台島村・椿村（現在の船川港附近）から海岸部を北上し、入道崎をこえてさらに半島北部の湯本村・北浦村（現在の北浦湯本・北浦北浦附近）までの海岸の景勝が描かれています。作成年代や作成者は不明ですが、数多くの岩に名称が付され、また船による往来の様子や徒歩で巡る旅人の姿までもみることができ、非常に貴重な絵巻資料です。実際に男鹿半嶋に足を運ぶ前に、どうぞ「男鹿半嶋図」をご覧ください。



戸賀白岩附近・旅人の姿

ところで、最近よく取り上げられる男鹿の観光スポットといえば「ゴジラ岩」があります。細かい描写の「男鹿半嶋図」にも、ひよっとしてそれらしい姿が描かれてはいないかと探してみましたが……残念ながら、ゴジラは登場していません。

【加藤 昌宏】